

- (B) それはよくないね。  
That's too bad.  
早くよくなるといいね。  
I hope you will get well soon.
- (A) ありがとう。きつとなおるよ。  
Thank you. I'm sure I will.

映像 1

- (A) やあ、今日は、ごきげんいかが。  
[ ]

- (B) おかげで調子いいですよ。君はどう。  
[ ]

- (A) かぜひいたよ。  
[ ]

- (B) それはよくないね。  
[ ]

早くなおるといいね。  
[ ]

- (A) ありがとう。きつとなおるよ。  
[ ]

映像 2

- (A) やあ、今日は、ごきげんいかが。 →

Hello. How are you today? [ ]

- (B) おかげで調子いいですよ。君はどう。 →

I'm fine, thank you. And you? [ ]

- (A) かぜひいたよ。 →

Well, I have a cold. [ ]

- (B) それはよくないね。

早くよくなるといいね。  
[ ]

- (A) ありがとう。きつとなおるよ。  
[ ]

help you? と言って仲介をしてやれたらと思う。

- ④ 旅行の途中の自動車の中などで、英米人と隣り合って話しかけられたり、あるいは自分から何か話しかけてみたいという気持ちになった時、たどたどしくても友好的に話ができる。

(大修館「英語教育」1974年、12月号)

この程度の範囲内で、生徒に英語を話す訓練を試みたい。生徒は、How are you? と聞かれれば、ほぼ反射的に、I'm fine, thank you. と答えるドリルを受けているが、身体の調子が悪いときには、それではどんな答え方をしたらよいのかという例が、左図TP 1である。映像1のように英語の文章は、紙片等でかくせるようにしておく。映像2のようにその紙片を開いたり閉じたりすることによって、英語の文章をみせたり、かくしたり自由にできるようにしておく。

指導例

- ア. 映像1の日本語をみせて、それに対する英語の表現を考えさせる。生徒の中からは、いろいろの英文が出されるであろう。そこで、例として映像2のように英文をみせていく。そのあと chorus でクラス全体で例文をドリルする。
- イ. 日本語の方だけ残して、順次英文をかくしていき、その英文を、任意の生徒に指名して言わせてみる。これは、英文を暗唱させるためにはきわめて有効である。

ウ. 生徒を2人1組として、むかいあわせ、AとBに役割分担して、おたがいに声をだしあってドリルさせる。その時は、イの段階でまだ覚えていない生徒を配慮して、映像2のように、英文・日本語の両方をみせておくとよい。

エ. 以上の段階までで、自信がついたところで、生徒2人1組を任意に指名して、AとBに役割分担して演習させる。その時は、映像1の状態にして、日本語だけみせて、英文はみることができないようにしておく。

以上のように、英語の文章を覚えさせる時、必要に応じて何度でも英文を写しだしたり、またかくしたりするためには、OHPはきわめて有効である。実さい問題として、普通黒板を使った